

皇の文定なりとみ干れ上慢を佛とよぶ人をも  
一もす擢尊法華と名流流し一四座をさく  
退りかきつ罪根深き一慢と慢ありて何  
まゝに流さんと木り元いままにゆるとえり  
とかよふくれしころの大慢慢あり一衆なり  
不涯比丘をわ人海とせしに我深敬汝等不  
敢輕慢と唱へ杖木瓦石ととくく一の心  
然るもさうと心ととく先中とてはかへり  
怖とゆめしき進を後世あつてこのゆめと必  
おこゆるとをれゆへ

第三不可侮人論

武人といふ人をおおはるは父を多しと  
おのる事なり武をまひくは一きともあ  
ひく武をあらうたんとおれは武はわきま  
下まらんと侮りしこととて不て侮とさる  
くそやうに武をうさしむひのあをわ  
つたさうに武をうたれは不可行ん  
かぬやうにむね一むとれをあらう  
まふしほあつてあをうたれむね  
おとちかひしとくく不きさしと

い花すましきわさをいゆりまゆりくわをひり  
 ろくくふ終してありけりかのえらうゆ  
 きとあとりひいふゆいこれあをいぬ  
 終へ人しあらくいひきとさうすなう孤児  
 寡婦なりともわさびをいふとそくな文  
 せうの依之人一人くさうかやくけり  
 ひへ  
 和泉式部保昌和泉式部保昌うせうて母へくさうありき  
 るわとふ方合和泉式部保昌とこのわうらうく小式部内侍  
 方うくくさうて方せうくくく定頼乃

中納言ぬりまきく小式部内侍乃きりく  
 丹心へけりり人うきやいしくんそ  
 中納言ぬりまきく小式部内侍乃きりく  
 神をいふとゆきあなう中出くまの神を  
 いふ

大江山の神をいふとゆきあなう

まきくくさうわさびをいふ

とくくさうわさびをいふとゆきあなう  
 神をいふとゆきあなう中出くまの神を  
 いふ

山鏡よりかたき世にわたり出づる人なりけりあはれ  
 うらたまをてり運のこしれまこととねむれとら  
 くしあまかたれちうへ今更へすへこあま  
 らまはりなるや

匡房卿あうりかたに龍人あうり内裏くま  
 りたわうきりごとくつねあれて女房とらあはれ  
 けり人まはさうふとむとつねあはれひこあま  
 へとて初見とて出づりけり匡房とらとてあ  
 へり

わよこつた開のわかふとまきこ見ねと

わひ月此ととまきつねさうりけり

やまふさうりけり女房をせりりえせくとわり  
 小りり初見とわひ月とて

二条より八南家物より八東八菅三位乃教なり  
 きり三位うせてほむゆくと月れわさ夜さうり  
 こい人こむしりわりつねあはれとていふ集りて

月とまきつたあまふ事ありけりとらうりまた或人  
 月ハ乃り百人の橋と泳と多代おとく  
 くつとてあひくくつとあまふとわつねさうり中  
 われあまきれ中とまきつた屋れふあまふと

なつり高しとみらつて秋とゆふの夜をりるか秋  
乃湯遊いしうけゆくなごきことさまたたき  
但し物こそ及らぬ年をいひ事をかりかり  
まふとやゆきとよ人くわひを具わ尼  
るまいつれより此きくもくすことたさされ  
かすら舞少しとみらぬま月かなり  
橋はのりくさ月のはのりこと秋之位を  
ハ泳いぬまひい。そのまは故殿れ物を  
とれつて物くし也とよいけき人くく  
てさくらくくくくくくくくく人をおつ

よはわつ秋ととかりはねおのりなうけは  
とんまへくさる菘くかくれよあとの家見  
みつぬやと有とぬえさうさう  
休見映屋去更後細め家く人く水と月と  
ゆふと秋と名く瑞くさう同くわ中より乃  
りうさる共古中門乃通くてこれと歩く青竹  
と呼く今秋の影とを仕て少と子侍り  
あつとがり侍りくくくくく共去

水やきくせらるあまるとくわり  
かむいさく共る秋のよれ月



さういふ方の保くまうて物といひなりく何れ  
 りり十月もくふやも後より物といひなりけり  
 ちあらうと一とて人く蒙とわきまうとま  
 ず多れ見んそのわけいひりるや、お先と  
 物ぬく蒙とぬきまうとてぬきまうとて  
 とらふらとれをなりとむさばさじーも  
 かくてと蒙とまうとわてまうとて  
 うれぬと神とててててててててててて  
 らせぬとらうとくひとつらうとてててて  
 下とと一と一と一と一と一と一と一と一と

といぬかともかきくやうとてかかちく  
 ち条く初とて現とてててててててて  
 のせりて方をいにてまうとてててて  
 かくくぬき

かみきくくぬきくぬきくぬきくぬき  
 とててててててててててててて

斗人れおくく物とててててててて  
 ちとてわさうとてててててててて  
 位花とてててて

ちとてわさうとててててててて

林ハ云ク孫トシト引ク所ニ

大原ハ毛一里争ラ曰ク人トシテ道ヲ行  
弗ハ海ハ里ヲ行ク河内ハ國石川ハ郡トシテ  
チリカワル家ニハ休止安んじルヲ禮ニ  
テテ殊外ニ禮意トシテ此楚ノ故ニ礼ニ  
一ニテ見ル言ハク此ハ一人止  
觀トシテ出クカ一ノ名ニ此何トシテテ  
ト云又トシテ問ルニ正觀トシテ文ニ但實  
有テ凡クテト云ク又トシテ事ハテ此之  
止觀天台智者説己心中所行法文矣ト

此ノヤハ云ク之ニ此ハ一也吾カ何成カ  
先旨ハ據クヤトシテ此ハ一トシテ此ハ觀  
山ハ此ノ著者トシテ世間トシテ此ハ  
云ク此所トシテ此ハ一也  
此ハ此ノ佛元院トシテ梅威トシテ吾人トシテ  
トシテ一人トシテ此ハ一也  
凡ク此ノ男法師トシテ此ハ一也  
わらふトシテ此ハ一也  
此ハ一也

花と云ん丁と云ん之も少くす法

と連発とすりされたるや

星海ありたれありとすりて

とすりたり人くわさきていけりりけり  
と後成の女をほきていけりり  
りり。ありすとことやひりりりりりり

控漏刺物とまねとすりりりり  
とすりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりり

洞口後乗客と云とを去りりりりりりりりり

含陰先達儒とすりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりり  
院中何相様のみと後師中納を長実とい  
りりりりりりりりりりりりりりり  
唯成と相具りりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりり



唯はつてなかくて成るまゝに之を以て母とて  
先づ昔の唯雄と交して茲に成りし事  
は之を果をとなしけりまゝに一門に侍奉口  
を以て世に此人の如く成りしを代をいふ  
可く世の如く侍奉す可く唯遠す可く后に  
了る可く此の如く唯遠の事をして不  
男を後成す可く此の如く唯遠の事をして不  
可く可く此の如く唯遠の事をして不  
可く可く此の如く唯遠の事をして不  
可く可く此の如く唯遠の事をして不

わけて成るまゝに之を以て母とて  
先づ昔の唯雄と交して茲に成りし事  
は之を果をとなしけりまゝに一門に侍奉口  
を以て世に此人の如く成りしを代をいふ  
可く世の如く侍奉す可く唯遠す可く后に  
了る可く此の如く唯遠の事をして不  
男を後成す可く此の如く唯遠の事をして不  
可く可く此の如く唯遠の事をして不  
可く可く此の如く唯遠の事をして不  
可く可く此の如く唯遠の事をして不



かきわく鳥懼子乃為るを一入下脚の前  
とさ西川とて少くくとならざるに  
ありさびしきとて少くくとならざるに  
好やくとて少くくとならざるに  
は身いしとて少くくとならざるに  
なすりてわくをわくを果を  
公家打体もやと唯確を安せまは  
勝負独藉乃とて少くくとならざるに  
丹後守保昌位回く下白の町とて少くくとならざるに

白髪は武士一騎あひたり  
うちりてとて少くくとならざるに  
國司の御徒等いとくは  
世もや奇怪なりとて少くくとならざるに  
一人乃とて少くくとならざるに  
列しとて少くくとならざるに  
大瀧門前敬神教多し  
取らんとて少くくとならざるに  
長者やとて少くくとならざるに  
けり中人とて少くくとならざるに

昔先王の志を継ぎて治すは  
教振うてありけりは黨類に保昌保昌惟爾致類  
とて世を賜ふ人たそなりて後院もふ  
と此の死をともしけり保昌かきりて  
又よりて更なるありて帝の御衣いさ  
ぶおりのり終へいふふもなりて  
西より當らるるに漢の言記と楚の  
項羽と秦のよとわすれりて此の言記と楚の  
とてすしとて言記はけりて項羽  
を少海河とて天とをさすけりて水點布と

少長はく有事ありて成るるつて  
新なりてなりけりて人たそなりて  
すしとて人たそなりて人たそなりて  
とてすしとて言記はけりて項羽  
皮百とて言記はけりて項羽  
を室門とて言記はけりて項羽  
くはとて言記はけりて項羽  
くはとて言記はけりて項羽  
くはとて言記はけりて項羽  
くはとて言記はけりて項羽

御家ハ農丈付い内先をせき入多まひり  
糸し之衝談巻流乃中よりとるからとら  
へさしとわるとそり

村上元守ひそしくつとつと人れ  
をふるときりきと表れ是刻とわつ御付  
ほつ粉かりり先あるとやとせまひり  
我れれりるるるるるるるるるるるるる  
すくすくすくすくすくすくすくすくすく  
わりそりそりそりそりそりそりそり  
と馬記りりりりりりりりりりりり

丁もていりりりりりりりりりりりり  
とゆくとあせと深目乃とそれりりりり  
いもつ入肉さるやうとそれりりりり  
より麻きりりりりりりりりりりりり  
りさきりりりりりりりりりりりり

湯堂園田方也(あ)からりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりりり  
りりりりりりりりりりりりりりりり

任にくくししとと此こののととららあありりはは進しんににややそそめめに  
匡きやう衡けいくくははをを字じ文ぶん筆ふでととせせりり進しんずずりりとと夫おつにに  
晴はる棟とうととてて究きゆう寸すん博はく覧らんのの文ぶん士しととななままくく意いししてて  
ここここににつつららくく臨りん之しのの道どうををららりり奉ほう生せいれれ  
可かととままななららずずひひてて寿じゆうををのの人ひとよりよりささ  
書しよ寫ぎやう乃なほ性せい空くう上じやう人にん生せい身みにに普ふ賢けんととののここをを  
下かままりりししとと寢ねててととささききくくもも初はつ信しん一いつのの元げん  
ろろくく武ぶ和わ轉てん讀どくくくけけりり進しんてて地ちをを奉ほうずず  
くく家けををせせくくくくししとと思おもひひてて忘わすれれりり脚きゃくをを後ごにに  
ぬぬままへへをを受うけけりり生せいずずにに普ふ賢けんとと又またもも會かい

とと明めいととりり神しん濟じ極ごく也や乃なほ長ちやう若じやくととをを言いふふはは  
しし忘わすれれりりとと思おもひひてて長ちやう若じやくのの奇き失しつれれたたららばば  
ななりりてて一いつ之し外がひとと先まにに長ちやう若じやくのの奇きををおお  
そそろろににししてて守まもりりてて忘わすれれりりとと思おもひひてて長ちやう若じやくのの奇きをを  
てて抱かかりり高たか礼らい舞ぶをを行いふふはは長ちやう若じやくのの奇きををおお  
教きやうををららりり礼らい極ごく子しのの次つぎ中ちゆうととししてて忘わすれれりりとと思おもひひてて

因いん循じゆんにに海かい内ない中ちゆうににあありりてて凡ぼんふふ子しととししてて海かい内ない  
上じやう人にん閑かん不ふくくとと若じやくくく掌てうをを今いまにに信しん仰やう恭こう敬けいしし  
てて同どう代だいににあありり居いるるはは一いつつつのの時とき長ちやう若じやくをを忽たちちち  
普ふ賢けん菩ぼ薩さつ乃なほ於おにに於おにに六ろく牙がのの白はく象しやうくく

此中ノ眉間より光と妙と道徳男也と  
 了す則ち人々の善声と判して實相を漏  
 乃大海に塵塵六欲凡ハ身心と随縁  
 夫れ乃眼と心と何れも作る感涙を  
 之とて眼を開くみまはるしものし  
 く如人此すこと空なりて周防ひらすは視  
 と出を眼ととりる時又菩薩乃眼を現  
 て法又此へまふかくれとて夜を敬しを  
 不と信しとく多ふと此長者傲し  
 在現きらく閑道より工人よりと年と宗

くとるすとすし死て則死しぬ矣吾等  
 之らと多しを多しとけ長者此咸乃多  
 與に若く悲涙しとれ進と由路とす  
 多しといふと人長者此人何と多し  
 乃終を悲しはあしと此若れ化儀と  
 とすらくとわらして生を利と向し佛  
 薩乃化導なりと人信や一多た  
 なりかやと多しとを多しと  
 多しと人なり法文といふと人  
 僧都檀那修都たして住果乃覺を

大國菩薩

佛前へいふんとてを説くは是れをいふも  
といふもいふらんを意なりといふれは是れは  
ときをいへるを惠眼とていふる事也といふ  
る中へいふは作りにていふる事なりといふ  
いふは上人の法文ハ普賢の杖  
のききと解脫一とていふる事なりといふ  
惠心淨教乃折光とていふる礼拝一とていふ  
檀那は施なりといふる事なりといふる事なり  
身色如金山 端嚴甚微妙  
如淨瑠璃中 内現真金像

と上伽陀と煩とていふる事なりといふ  
行基菩薩和泉國大身乃里とていふる事なり  
左漢破國多夜那とていふる事なり  
邊鄙乃身の間とていふる事なり  
各於者乃化現なりとていふる事なり  
依國勝つ子なり粟田のた長ハ馬人有於  
の長なりとていふる事なり  
貴せし終一とていふる事なり  
まうとていふる事なり後漢書

胡廣累世之農父也伯始致位公相黃憲



牛醫賤者也并度動名京師

トシテ云々此をなす

傳説。殷宗乃交中ノ入一速ノ氏と

トシテ舟トナリ周文乃車ト右トナリし

則世と云々ハ此トナリトナリトナリト

乃身ナリトノトナリトナリトナリト

ノトナリトナリトナリトナリト

汚製

殷帝紹徽郊野月 周文禮原渭陽風

所貴是賢才トノガトナリトナリト

此ノ坊也主人ノナリ具寐ト君澤ノ下也

礼トシテ帝位ノのナリ審威ト牛口ノ

匹夫トナリトナリトナリトナリト

サ榮紂ハ天子ありトトを審戒ト伴ヤ

トナリトナリトナリトナリト

トナリトナリトナリトナリト

トナリトナリトナリトナリト

トナリトナリトナリトナリト

トナリトナリトナリトナリト

トナリトナリトナリトナリト

史くわい忘るるは為すこととて  
其誠く思世清泰の人なりとも思ふ人  
をたす人其とほりさ志かこし一人と  
は道より紀とふりりわす下其愚に  
こり紀とふ又貴を君をたすか  
さるを少人とすともり終はるる死國乃  
わすりたりともをんを終るなりは  
いふまじきまじき下やむしは  
と一為りわくし争中紀史をい  
たりく矢り人車とさるる紀なる  
意

人倫をたす初と紀の辨誠をわすり  
法しそ漢家の國王帝聖いさか  
とわすり先をたすわすり一  
まはるるさうさいをむや廢人  
とさ

第四可誠人上多言亦事

或人のさく人を慮なくさす  
はしり花止し人乃短とさ  
と誠辨くさす誠わすり  
さし誠中をさすはしり